

2006 年夏学期のまとめ

提出日: 2007年1月15日

氏名: 池上 真

はじめに

一般的に、アメリカの大学の夏休みは、5月から8月までで、日本の大学よりも休みが長い。ほとんどの学生は実家に帰ったりしたが、僕は、サマースクールとキャンパスライフでのアルバイトで日が明け暮れるほど、びっしり詰まったスケジュールで毎日を過ごした。

サマースクール

僕は、このサマースクールで LSAT のクラスを受講した。LSAT は、ロースクールへの入学を希望する者全員が必ず受けなければならない試験である。LSAT はアメリカの学生も受験し、偏差値で判定される試験なので、当然彼らと同程度の能力がなければ高得点は得られず、日本人である僕にとって、この LSAT の壁を突破することは半端ではなかった。また、LSAT のトピックはさまざまな分野から選択され、特定の学部の卒業生だけに有利な問題とならないようにデザインされていたが、いろいろな分野の英語を読む時間が限られていたため、とにかくひたすら問題演習を行うことにより、問題に慣れて行こうと思った。はじめは、まったく歯が立たなかったが、クラスで LSAT の試験特徴やそれぞれのセクションの問題の解き方を学びながら、現時点での英語力で効率よく解答する方法を習得して行った。サマースクールが終了するまで、辞書で英単語の意味を調べながら内容を理解していくというパターンが続いたが、これにより、LSAT の全体像や問題の解き方を学ぶことができたので、このクラスを受講してよかったと思っている。

キャンパスライフでのアルバイト

友人の紹介により見つけたキャンパスライフでの業務の内容は、主にベッドメイキングである。5月に春学期が終了し、多くの学生が一斉に実家に帰省するが、まもなくサマースクールが始まり、またいろいろなところから新しい学生がやってきた。5月の

はじめには、ギャローデット大学で卒業式が行われ、多くの卒業生と彼らの両親や兄弟などがギャローデットのゲストハウスに泊まり、その時期は特に多忙を極めた。キャンパスライフでは、サマースクールの学生以外にも、いろいろな団体からの宿泊申込を受け付けており、各寮の各部屋に、ブランケット、枕、シーツ、枕カバーを配布し、回収するという単純な作業が続いたが、彼らのチェックインとチェックアウトは目が回るほどに忙しかった。

一方、キャンパスライフでのアルバイトを通じて、普段の学期中とは違う人と話す機会が増え、新しい発見もあり、自分の居場所が広がったように思う。業務を終えた後は、ギャローデットのジムに行って汗を流したが、そこでもいろいろな人と知り合うことができ、アメリカ手話の向上だけでなく、アメリカ文化に対する理解をさらに深めることができたのではないかと考えている。

□ 来学期への抱負

来学期は、LSAT の試験を控えており、また、ロースクールに出願するために必要なパーソナルステートメント(志望理由書)や欧文推薦状を揃える必要がある。LSAT では、夏休みの努力が実るよう引き続き問題演習を行っていきたい。パーソナルステートメントも、早めに書き終え、英語を母語とする人たちに読んでもらい、各人のコメントを分析し、明らかにぎこちない表現を指摘してもらい、合格判定者の注意を惹くよいエッセイに仕上がるようがんばっていきたいと思っている。